

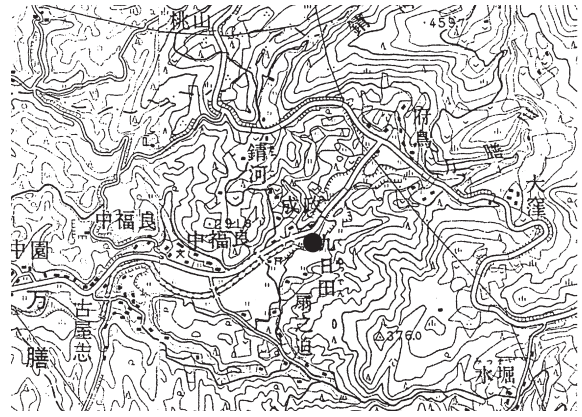
(始良郡牧園町万膳)

位置と環境

牧園町の市街地から北へ約2.5km、栗野町との境に近い万膳地区を北東から南西に流れる万膳川の左岸に位置し、万膳川に向かって緩やかに下降傾斜する北西向きの標高約200mの丘陵端部に立地する。

調査の経緯

ほ場整備事業が計画されたことに伴って牧園町教育委員会が県教育委員会の協力を得て、平成4年に確認調査を実施した。その後の協議を経て、平成5年に設計変更による現状保存が困難な部分約303m²を対象とする記録保存のための本調査が実施された。

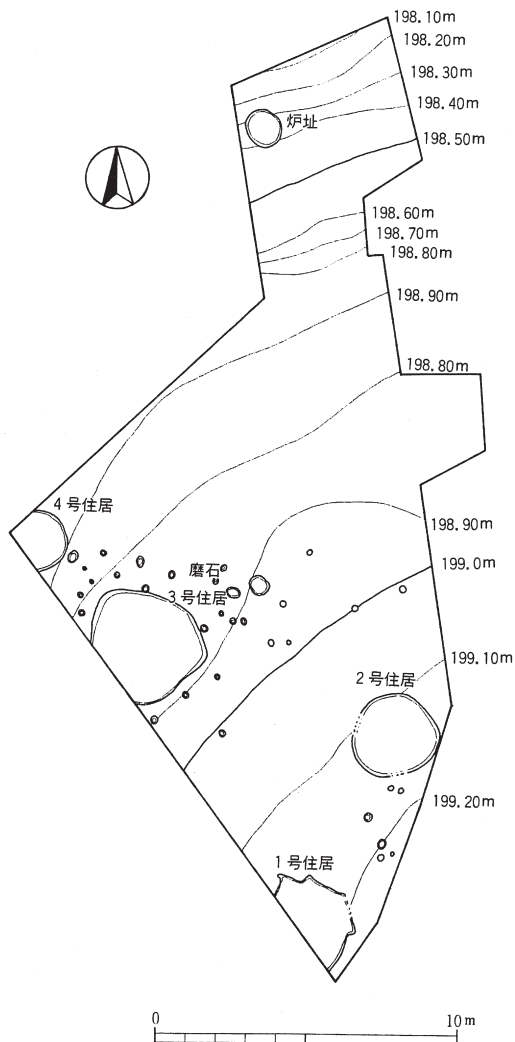


第1図 九日田遺跡の位置

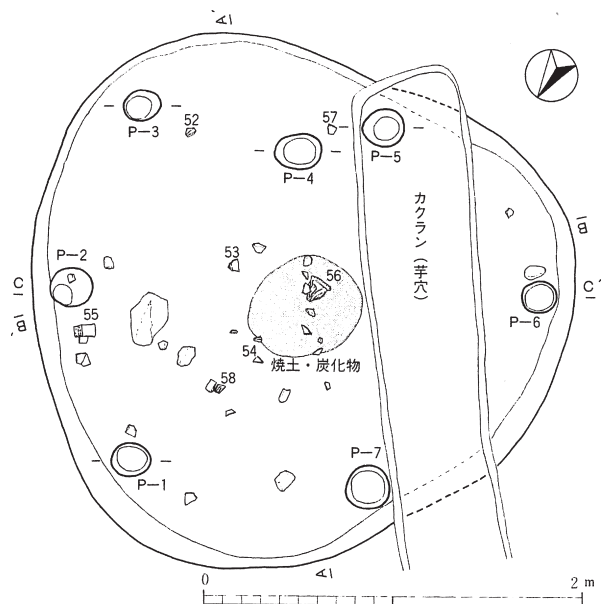
遺構と遺物

平成4年に実施された確認調査では、約5,000m²にわたる古墳時代、縄文時代前期・後期の遺物包含層とともに、古墳時代の竪穴住居跡の一部が確認された。

平成5年に実施された本調査では縄文時代中期の竪穴住居跡4軒が発見された(第2図)。この時期の住居跡の発見例は県内ではきわめて少ないことから、貴重な資料である。残存状況が良好だった2号住居跡は、直径約2.9mの略円形であり、検出面から床面までの深さは約20cmであった。床面から柱穴と思われる7基のピットのほか、中央には炉の跡も確認された。炉は中央を約8cmほど掘り下げて作られ、埋土には多量の炭化物粒子が含まれていた。



第2図 住居跡配置図



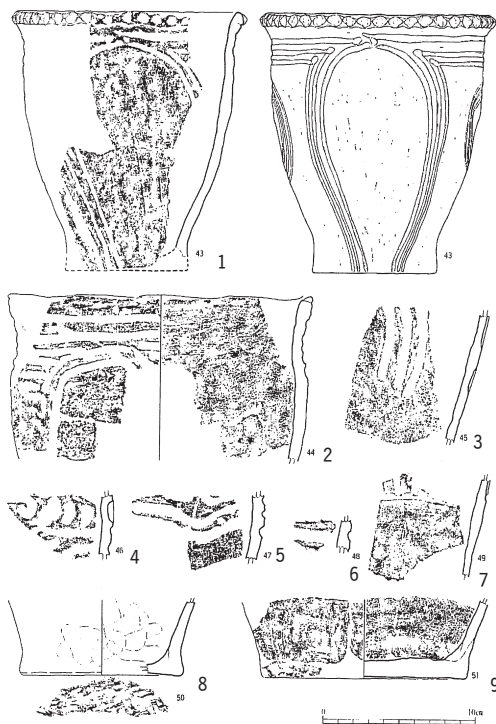
第3図 2号住居跡

3号住居跡は2号住居跡よりも大きく、直径約3.9mの略円形で、検出面から床面までの深さは約27cmであった。床面から柱穴と思われる6基のピットのほか、2号住居跡と同様に炉の跡が中央に確認された。また、住居跡の周りからも多くのピットが見つかった。

出土土器は縄文時代中期の阿高式系の土器が中心である。1は1号住居跡から出土した推定器高17cm、口径15.4cmの小型深鉢形土器である。口縁部には突帯が貼付され、刻みが施されている。頸部には3条の平行沈線が巡らされ、底部から頸部にかけては、沈線で大きな円弧状の文様が描かれている。14は2号住居跡の炉の直上から出土した器高11.9cm、口径13cmの小型深鉢形土器の完形品である。外面には多量のススが付着していた。口唇部には粘土紐をねじった装飾と刻みが施されている。頸部には2条の平行沈線が巡らされ、底部から頸部にかけては、沈線で直線と曲線を組み合わせた文様が描かれている。

石器としては、遺物包含層から石鏃が出土したほか、3号住居跡からは石斧、磨石、石皿などが出土した。

2号住居跡と3号住居跡の炉の中から発見された



第4図 1号住居跡の出土遺物

炭化物をもとに年代測定をした結果、それぞれ今から4,710±270年前、4,770±240年前という数字が得られた。年代的には縄文時代中期前半の数字であるが、出土した土器の中には中期末の特徴がみられるものがある。

特徴

県内では類例に少ない縄文時代中期の住居跡が4軒発見された。

資料の所在

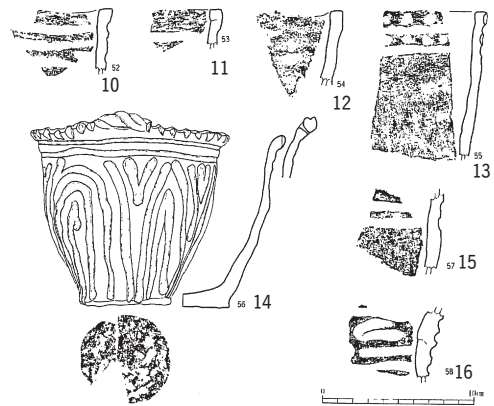
出土遺物は、牧園町教育委員会に保管・展示されている。

参考文献

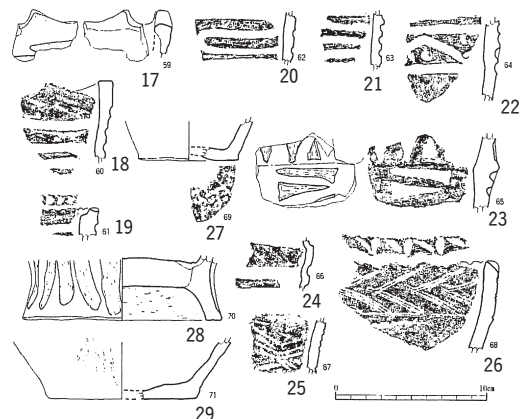
牧園町教育委員会1993「九日田遺跡」『牧園町埋蔵文化財発掘調査報告書』(4)

牧園町教育委員会1995「九日田遺跡2」『牧園町埋蔵文化財発掘調査報告書』(5)

(児玉健一郎)



第5図 2号住居跡の出土遺物



第6図 3号住居跡の出土遺物